

# イルカ通信

毎月1回発行

小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA)

2002年9月1日 No.002

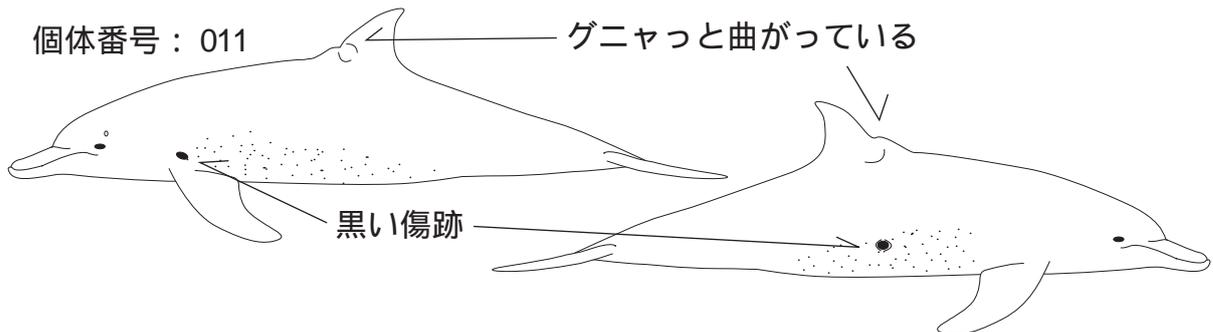


## WANTED 2



個体番号：011

グニャッと曲がっている



このミナミハンドウイルカ、原因はわかりませんが背びれの前側がグニャッとへこんでいます。この特徴から、洋上からでも、ちょっと離れた水中からでも比較的簡単に見分けることができます。左側の胸びれの上と右側の側面には、直径5 cmぐらいの黒い傷跡（ダルマザメという小型のサメによる食痕？）もあります。お腹にみられるゴマをふりかけたような模様は成長に伴って出現するもので、このことから大人のイルカであることがわかります。また、ペニスを出して泳いでいたことから（左上写真）、オスということもわかりました。

このイルカはこれまでのOWAの調査で5月1日、6月10日、7月4日に父島の周辺で確認されています（8月は確認されていません）。父島在住の東本昌子さんが6月1日に南島付近で撮ったイルカの写真にも写っていました。  
森 恭一（OWA）

～ さっそく発見！

「こんなイルカを見たことはありませんか？」～



イルカ通信第1号で紹介した背びれにたくさんの傷のあるイルカ（左：個体番号008）と思われるイルカが、8月22日に釧路列島の嫁島で確認されました。父島で民宿を経営する高橋研史さんが見つけたもので、この日はこのイルカを含めて13頭のミナミハンドウイルカと約50頭のハシナガイルカと一緒に泳いでいたそうです。